

音楽芸能スタッフ科 ローディーコース
1年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	電気・舞台知識 I	74	2	4
講義	PC知識 I	74	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	74	2	4
実習	分野別実習 I	74	2	2
実習	サウンドアナライズ I	74	2	2
実習	イクイップメント I	74	2	2
演習	スタッフワーク I	148	4	8
実習	PA I	148	4	4
合計		888	24	38

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>①企業に就職するために必要な知識とスキルを身に付けるための授業を行う。</p> <p>②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。</p> <p>③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。</p>					
到達目標					
<p>・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け将来の自分、自分の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようにする。</p> <p>・身だしなみ、挨拶の仕方や正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールなどビジネスマナーの応用知識を身につける。</p> <p>・就職活動における履歴書及びエントリーシートの完成度を高めるとともに面接対策なども実施する。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・自分の第一印象は？、信頼印象力 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 5～8回目	・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ
【前期】 9～12回目	・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語) ・敬語を使った自己紹介文作成
【前期】 13～16回目	・電話対応。(かけ方、受け方、取り次ぎ方) ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 17～19回目	■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 20～23回目	・キャリアビジョン(自己分析) ・自己PR、志望動機作成
【後期】 24～27回目	・履歴書作成 ・エントリーシート作成
【後期】 28～31回目	・一般常識、SPI対策
【後期】 32～35回目	・面接対策
【後期】 36～37回目	■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ることで、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいのかについて考え、自己成長につなげて行く。更に、キャリアビジョンについて考えることで自分の目標設定ができ、これからの学内での2年間をどのように過ごすのか、どういう姿勢で授業に取り組むのかを考えることができる。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。 上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
授業概要					
①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。 ②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。					
到達目標					
・音楽史を学ぶ事により、数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、それぞれの現場において、演者が目指すであろう音楽像を、様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や、技術提供を通して、音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。 ・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 5～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～11回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 12～14回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 15～18回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 19～21回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 22～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知ることとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	電気・舞台知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	ヤマハ音楽振興会 StudioUIにて長年レコーディングエンジニアとして従事した後、現在は様々なイベントにおいて制作業務や舞台監督として活躍。これまでポピュラーソングコンテスト、世界歌謡祭やドイツのドレスデン室内楽団など国内、国外問わず他多数のイベントに携わる。 上記の経験を活かし電気と舞台に関する講義を行う。				
授業概要					
①演劇、音楽、舞踊、演芸、伝統芸能など舞台業界裏方として会館、公共文化施設、ホール、演芸場、ライブハウス等への出入りの際最低限の電気に関する知識の習得、劇場、ホール等の舞台機構や公演製作等の基礎知識を学び舞台技術基礎を取り入れる事により現場でのコミュニケーションを円滑にし、優れた創造性の基盤をつくりあげる。					
到達目標					
・様々な音響照明舞台現場に於ける一般常識やエンターテインメント業界の裏側の一般的な知識を身に付け校外現場にも対応可能にし社会人として業界人として活躍出来るよう学習する。					
・実際に民間劇場での実習を行い様々な用語舞台設備等の確認、現場にて劇場等での電気に対する理解を深める。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	電気・電流についての講義① ・電気と？
【前期】 5～8回目	電気・電流についての講義② ・感電の恐怖及び対策。
【前期】 9～12回目	電気・電流についての講義③ ・電気極性について。
【前期】 13～16回目	電気・電流についての講義④ ・電流について。
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合否を決める。
【後期】 20～23回目	劇場舞台についての講義① ・劇場舞台での電源の取り方。
【後期】 24～27回目	劇場舞台についての講義② ・劇場舞台照明電源について。
【後期】 28～31回目	劇場舞台についての講義③ ・劇場舞台に必要な電気知識。
【後期】 32～35回目	劇場舞台についての講義④ ・舞台全般電気知識を極める。
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合否を決める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	舞台裏側の業界は仕事上電気を扱う事は必須です。近年電気事故による大怪我も少なくありません。自分自身の身を守る事にもつながる電気知識の学習にしっかりと励んで下さい。劇場での業務にも支障が出ないように舞台知識も必要な科目です。劇場内の機構やシステムを知り尽くして卒業して頂ければ現場での即戦力に繋がります。
備考	舞台技術の共通基礎

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ソフトウェア関連企業で10年以上に渡りSE業務に従事。WEBや制御に関するソフトウェア業務を担当する中で、Microsoft Officeを駆使し企画書や設計書など内部資料作成を行う。 上記の経験を活かしコンピューター技術に関する講義を行う。				
授業概要					
パソコンは、生活を便利にするツールとして今日、あらゆるシーンで利用されている。スマートフォン・タブレット全盛の時代だが、ビジネスの世界では業界問わずパソコンを使いこなすことができることが必須項目である。この講義では、パソコンの各部名称といった最も基本的な項目からスタートし、音楽業界だけでなく、現在のビジネスで標準的に利用されているMicrosoft Office(Word/Excel/PowerPoint)ソフトウェアの概要と基本的な使い方を学ぶ。					
到達目標					
<p>・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。</p> <p>・就職後、ビジネス文書はこれらのソフトウェアのいずれかで作成されていることがほとんどです。したがって、この講義をマスターすることは組織から必要とされる人材の基本的な職務遂行能力の獲得に直結している。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	Microsoft Office概要、パソコン操作の基本。
【前期】 5～8回目	Microsoft Excelの基本①(ファイルの作成、保存、簡単な計算など)
【前期】 9～12回目	Microsoft Excelの基本②(簡単な関数、罫線など)、Wordの基本(ファイルの作成・保存)
【前期】 13～16回目	Microsoft Wordの基本③(各種機能の紹介、簡単な文書作成など)
【前期】 17～19回目	■前期試験: Officeソフトウェアの機能や部位の意味・名称に関するペーパーテストおよび与えられた指示通りのExcel/Wordファイルが作成できるかどうかを問う。
【後期】 20～23回目	Microsoft Wordの基本④(レイアウト要素の確認)
【後期】 24～27回目	Microsoft PowerPointの基本①(ファイルの作成、保存、簡単なプレゼンテーションなど)
【後期】 28～31回目	Microsoft PowerPointの基本②(プレゼンテーションについて)
【後期】 32～35回目	Excel/Word/PowerPointの適切な用途について総復習。
【後期】 36～37回目	■後期試験: 実技試験のみ(Word/Excel/PowerPoint) 与えられた指示通りのExcel/Word/PowerPointファイルが作成できるかどうかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/PC操作」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、業界を問わず世界中のビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。この講義を受講することで、仕事をする上で欠かせないコンピュータによる文書作成ノウハウを身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ローディー知識 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。上記の経験を活かしローディー知識についての講義を行う。				
授業概要					
<p>①「ローディー」という仕事の成り立ち、歴史や現状など根本的なところから学んでいく。</p> <p>②現場で頻出する基本用語をはじめ、舞台の構造、機材運搬時の鉄則や音響に関する事などを幅広く、ローディーとして必要な基礎知識を身につける。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ローディーの仕事内容や、ステージ・舞台の構造を理解する。資料の作成ができるようになる。 ・ミュージシャンがローディーに望む事を理解し、先回りして対応できるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ローディーの仕事とは？
【前期】 5～8回目	楽器の種類や、製造メーカーについて。
【前期】 9～12回目	ステージ・舞台の構造や名称、専門用語について。
【前期】 13～16回目	ステージ・舞台等で使われる単位、尺貫法等について。
【前期】 17～19回目	■前期試験:楽器の種類、メーカーについて筆記試験で知識を問う。
【後期】 19～21回目	資料の読み方、書き方について。
【後期】 22～24回目	各種ケーブル、電源等について。
【後期】 25～27回目	小規模な音響機材について理解を深める。キーボードやドラム周りを中心にモニターシステム等を構築する。
【後期】 28～30回目	1年間のまとめ。
【後期】 31～37回目	■後期試験:セット図、機材リストが正確に作成できるかどうか筆記試験で問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「専門用語/ 尺貫法/ 資料作成」の3項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	ローディーはミュージシャンに一番近いところで仕事をしていると言って良いでしょう。ミュージシャンをサポートし、より良い演奏環境を作り出し、最高の演奏を引き出す、やりがいのある仕事だと思います。
使用教科書	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識 I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。上記の経験を活かしサウンドアナライズについての講義を行う。				
授業概要					
アコースティックギター、エレクトリックギター、エレクトリックベース、キーボードやドラムなど様々な楽器の歴史、構造、特徴や演奏方法などを学び、幅広い知識を身につける。また、会場の形や広さ、温度や湿度による音の違いなどについても分析する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ポピュラー音楽で使用される楽器を中心に、様々な楽器についてその仕組みや奏法を学び、幅広い知識を身につける。 ・楽器について幅広く学ぶと同時に、それぞれの楽器の音が出る仕組みや奏法を覚え、簡単な演奏が出来る技術を習得する。 ・楽器の分類/それぞれの楽器の主なメーカーと種類/楽器の各部名称と様々なセッティング。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	楽器の種類や分類法、音楽のジャンルによる編成等を学び、一般的によく演奏される楽器を知る。
【前期】 3～5回目	打楽器/ドラムセットの構造・各部名称について学び、標準的なセッティングの方法を知る。
【前期】 6～9回目	弦楽器/ギターの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 10～13回目	弦楽器/ベースの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 14～18回目	前期のまとめ ■前期試験:各楽器の構造や各部名称等について、筆記試験で知識を問う。
【後期】 19～21回目	鍵盤楽器/アナログシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学ぶ。
【後期】 22～24回目	鍵盤楽器/デジタルシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学び、同時に他のデジタル楽器について知る。
【後期】 25～26回目	管楽器/木管楽器・金管楽器の種類、構造、特徴について学ぶ。
【後期】 27～28回目	民族楽器/打楽器をはじめ、弦楽器や管楽器のルーツについて考察し、知識を深める。
【後期】 29～37回目	年度のまとめ ■後期試験:前期と合わせて楽器の歴史や仕組み等について実技及び筆記試験で知識を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽器の分類/それぞれの楽器の主なメーカーと種類/楽器の各部名称とセッティング」の3項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、楽器全般を知ることとはとても重要なことのひとつです。授業を通してより多くの楽器について学びましょう。また新しい音楽と共に、日々進化を続け、新製品が開発される楽器の世界です。常に新しい情報を入手する姿勢も大切です。
使用教科書	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リペア/メンテナンス I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメント I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。 上記の経験を活かしリペア/メンテナンスについての講義を行う。				
授業概要					
<p>①ギター、ベースやドラムなどの楽器、並びにエフェクターボードやアンプなどの機材について、それぞれの構造及び正しい取り扱い方法を学ぶ。</p> <p>②ギターやベースのチューニング、弦交換やネック調整をはじめ、ドラムセットのセットアップなど基本的なリペア/メンテナンス技術を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・楽器知識で学んだことをもとに実際に楽器に触れ、構造、取り扱い方を深く知り、チューニングや、消耗品の交換などを実践する。</p> <p>・それぞれの楽器に触れ、リペアやメンテナンスの技術を習得することはもちろん、「仕事の道具」、「表現する道具」としての楽器としてのみではなく、「楽器を大切に扱う」「楽器を好きになる」という基本中の基本の心を育てる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	実際に楽器に触って音出し。
【前期】 3～5回目	ドラムの構造について／各部消耗品の交換／チューニング／メンテナンス。
【前期】 6～9回目	ギターの構造について／各部消耗品の交換／チューニング／メンテナンス／アンプについて。
【前期】 10～13回目	エフェクター用パッチケーブル作り・半田付け実習。
【前期】 14～18回目	■前期試験:ドラムのヘッド交換、およびチューニングの実技試験を行い技術の習得を問う。
【後期】 19～22回目	ベースの構造について／各部消耗品の交換／チューニング／メンテナンス／アンプについて。
【後期】 23～25回目	パーカッションの構造について／各部消耗品の交換／チューニング／メンテナンス。
【後期】 26～27回目	管楽器の構造について／各部消耗品について／楽器別チューニングの方法／メンテナンス。
【後期】 28～29回目	ノイズの種類とその原因・対策について／楽器電源について。
【後期】 30～37回目	年度のまとめ ■後期試験:前期の内容と合わせて、ギター弦交換・チューニングなど実技試験を行い技術の習得を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ドラムヘッド交換・チューニング等／ギター弦交換・チューニング等／半田付け技術の習得」の3項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	ローディーにとって楽器とは単純に言ってしまうと「仕事の道具」です。しかし、その「道具」を大切に想う気持ちがなければいい仕事は出来ません。立派な家を建てる腕の良い大工さんほど「道具」を大切に扱うものです。
備考	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	楽器クルーとして全国ツアーに同行し、福岡を拠点に楽器や音響機材のメンテナンス/管理に従事。 サンセットライブ <input type="checkbox"/> ナンパシヨット <input type="checkbox"/> ハイヤーグランド <input type="checkbox"/> 長崎スカイジャンボリーなどの音楽フェスや放送局の現地楽器クルー業務を担当。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。ローディーとしての楽器セット、MIDIルーティングなど様々なシステム構築を学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識、楽器の音だし、組立方の基礎。
【前期】 9～16回目	楽器などの立ち位置、ギター、アコギの弦替え、チューニング、PA、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 17～24回目	ドラムヘッドの張り替え、ベースの弦替えチューニング、4バンド程度の転換実習、バミリ、電源の取り方など。
【前期】 25～32回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの読み方、作成、転換実習、音出し、メモリーシートの作成。
【前期】 33～37回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 38～45回目	前期試験の復習、2セットのドラムの転換の仕方、バミリやチューニング、キーボードのセッティングと音だし。PAモニタージェスチャー。
【後期】 46～53回目	キーボードのセッティングと音だし。MIDIを用いて、MIDIルーティングなどの実習、音作り。
【後期】 54～61回目	実際にトラブルを起こし、対処する。図面を見てステージセッティング、バンド台を作成。
【後期】 62～69回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとに転換図作成、見方、転換の仕方、楽器調整、舞台進行など。
【後期】 70～74回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA I			
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ライブホールのサウンドエンジニアとして20年以上従事の後、現在はフリーランスとしてライブ、フェスや講演会など年間100本以上のPA業務に携わる。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①アナログの音響卓の操作。 ②ゲインの取り方、イコライジングの考え方やび操作。 ③メインスピーカー、モニタースピーカーの設置及びチューニング。</p>					
到達目標					
<p>・音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。</p> <p>・スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。</p> <p>・総合的に音響のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上及びPAスタッフとして自覚の目覚めをを目標とする。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	8の字巻、マイクスタンドの立て方、スピーカースタンドの立て方。 音響卓のゲインのとり方、イコライジングの仕方。(考え方) PAスピーカーの組み方、音響卓～アンプ～スピーカーのつなぎ方及びGEQチューニング。
【前期】 9～16回目	バンドセットの実習を意識したマイキング、メインスピーカー(モニタースピーカー)のチューニング。 ダンスポータル系のワイヤレスマイクの設置、メインスピーカー(モニタースピーカー)の設置及びチューニング。 ドラム周りのマイクのチョイス及びマイキング。
【前期】 17～24回目	PRE/POSTの説明、使い分けの考え方。 マルチボックス(16ch,32ch)マルチケーブルを用いてのINPUT/OUTPUTの接続。 バンドセットのライブ実習での実務経験。
【前期】 25～32回目	バンドセットのライブ実習での実務経験。 イベント時のPAセッティングの設置及びチューニング。 様々なPA機会でのスピーカー、マイクのチョイス。
【前期】 33～37回目	モニタースピーカー4系統によるバンドセットのライブ実習。 前期試験準備。 ■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 38～45回目	モニター卓の仕込み方の説明及び設置～チューニング。(ハウリングチェック) 分岐にて仕込み～実務経験。 デジタル音響卓の説明①(ゲイン、EQ等)
【後期】 46～53回目	デジタル音響卓の説明②(ダイナミクス等) デジタル音響卓を用いての仕込み～音出し。 デジタル音響卓を用いてのライブ実習。
【後期】 54～61回目	デジタル音響卓の説明③～⑥(AUX、MATRIX等) バンドセットのPA業務。(デジタル卓) これまでの復習。
【後期】 62～69回目	デジタル音響卓の質疑応答。 ライブ実習。(デジタル音響卓) これまでの復習。
【後期】 70～74回目	調整日。(まだ理解できていない事柄について説明) ■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログの音響卓で基礎をしっかりと学習していただきます。後期からはデジタルの音響卓を用いての授業が増えますが、アナログで培ったノウハウを生かして2年に昇級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
使用教科書	適時プリント資料配布。